



インターネットとの向き合い方



ニセ・誤情報

に騙されないために

一講師用ガイドライン一



はじめに（講演をされる方へ）

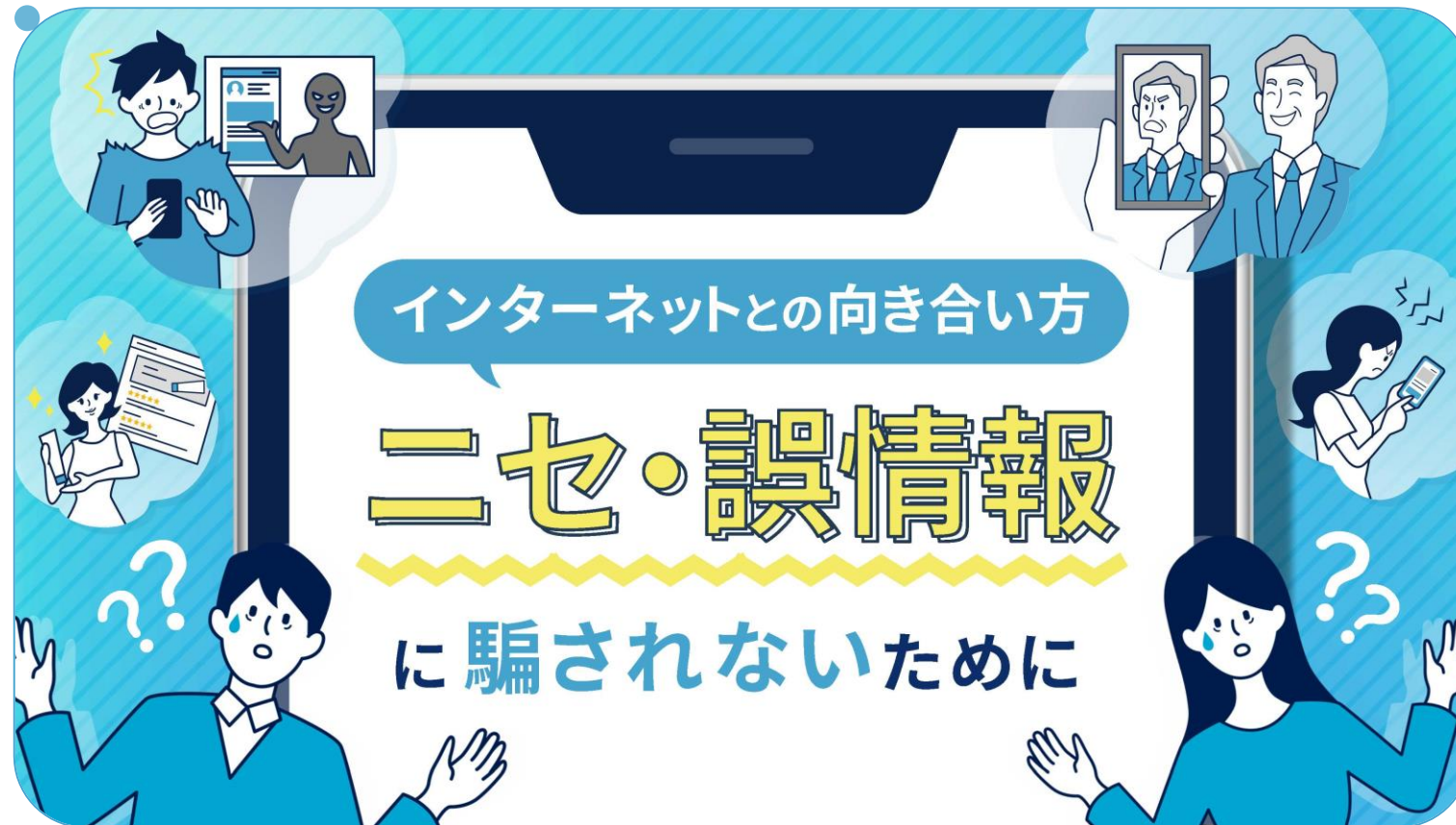
2016年のアメリカ大統領選をきっかけに、近年「フェイクニュース」が大きな社会問題となっています。日本においても、新型コロナウイルスに関連して「大きく息を吸って10秒間息を止められたらコロナには感染していない」「トイレットペーパーがなくなる」「ワクチンを接種すると不妊化する」といった誤情報が流れるなど、私たちの身近な生活にも影響を与えています。インターネットの発展に伴って、SNSやメッセージアプリなどコミュニケーションツールが多様化し、不確かな情報やデマ、意図的に作られた偽情報などが直接手元に届くようになった今、私たちが日常的に触れている情報の信頼性が問われ始めています。

「フェイクニュース」とは何か？ 一人ひとりができることは何か？

【Yahoo! ニュース, 「フェイクニュース」への備え～デマや不確かな情報に惑わされないために～（2021年9月）より引用・一部変更】

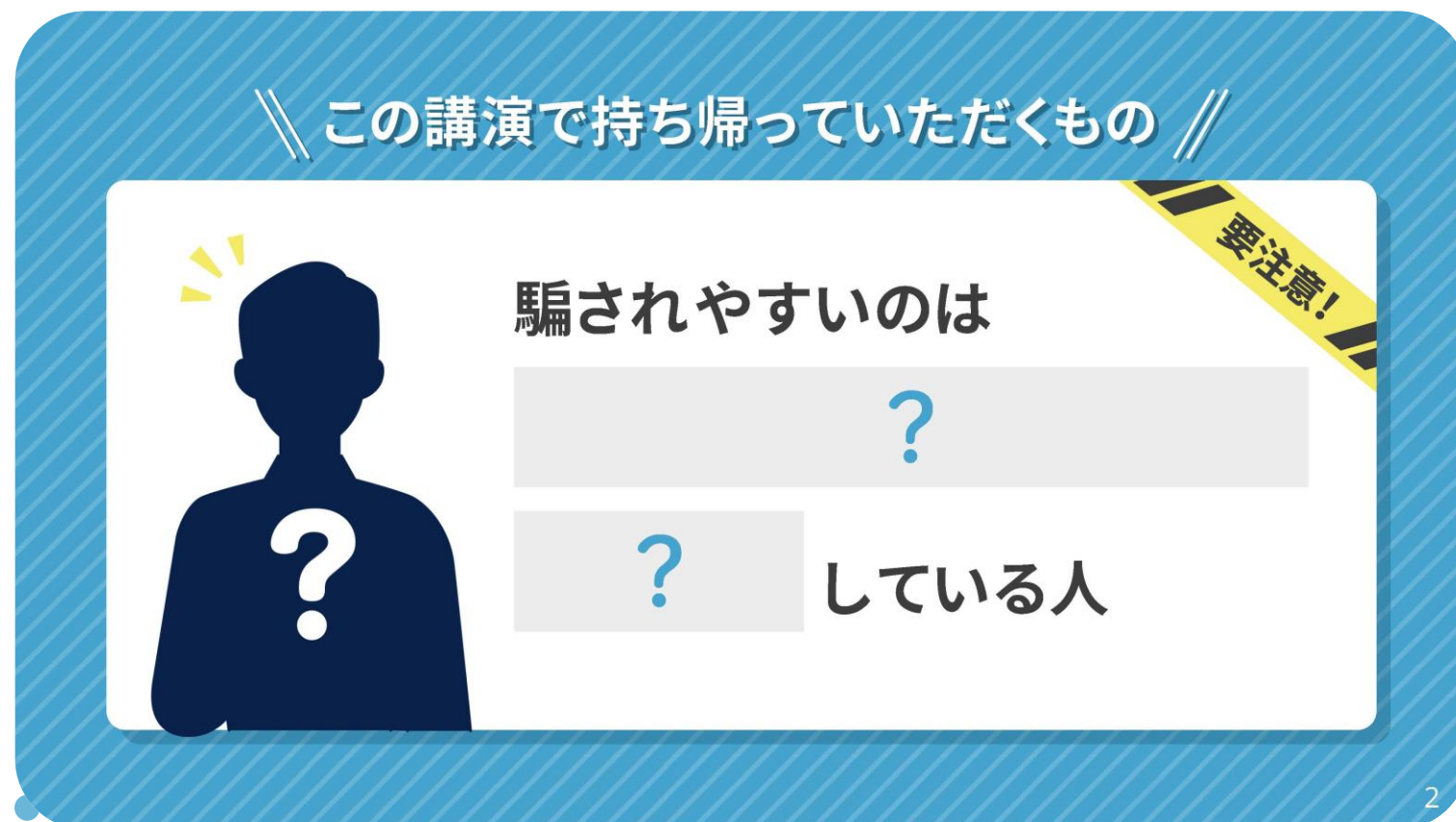
本スライド資料「インターネットとの向き合い方 ニセ・誤情報に騙されないために」は、EUのフェイクニュース教育プログラム「Spot and fight disinformation」を参照しつつ、日本の受講生になじみ深いようにアレンジして作成されています。あらゆる年齢層の受講者が、フェイクニュースを知り、それに備えることができるようになるために設計されています。50分前後の講義を想定したプログラムですが、講師の裁量により事例等を追加することも可能です。

（次ページ以降、スライドと連動する形で講師の説明例文とスライドの切替えポイントを例示していますが、説明例文についても講師の裁量でアレンジ可能です。）



最近よく耳にするフェイクニュースという言葉。ニセの情報、誤った情報という意味で使われることが多いですが、こういったものが私たちにどれくらい身近で、なぜそんなウソが作られ、それを放置すると社会がどうになってしまうのか。そして私達はどうすればいいのか・・・今日はそういった内容を確認していきます。

そして、この講演が終了した時、みなさんには一つの考え方を持ち帰って頂きます。スライドをご覧ください。**(クリック)**



「騙されやすいのは_____している人」

真ん中に文字が入っていません。この部分に入る言葉を、講演が終わった時、皆さん一緒に確認しましょう。ここにはいったいどんな言葉が入るのか、ぜひそれを考えながら講演を聞いて頂ければと思います。

さっそくですが**(クリック)**

はじめに

この講演では、一般的に用いられている 「フェイクニュース」という単語を使っていません

現状「フェイクニュース」という単語は、例のように様々な意味で使われています。

フェイクニュースと 似た意味をもつ単語の例

●嘘 ●デマ ●陰謀論 ●プロパガンダ ●誤情報
●扇情的なゴシップ ●ディープフェイク など

また、フェイクでないものを「フェイクニュース」と言って批判している例もあります。

「フェイクニュース」は、定義がまだ定まっていない曖昧な言葉であるため、
この講演では「**ニセ・誤情報**」という表現を使用します。

3

この講演では「フェイクニュース」という単語を使いません。このページ以降、一切出てきません。

フェイクニュースという単語は、一般的に間違いやウソの情報を指す意味で使われますが、フェイクニュースという単語自体、その言葉が生まれ、使われ始めてからまだ日が浅く、言葉の意味や使い方がしっかりと定まっていないのです。

そのため、嘘、デマ、陰謀論、プロパガンダ、誤情報、扇情的（せんじょうてき）なゴシップ、ディープフェイクなど、実に様々な意味でフェイクニュースという単語が使われています。そして、必ずしもこれら全てがフェイク、間違いとも限らないのです。

フェイクニュースは、定義がまだ定まっていない曖昧な言葉なので、この講演では、フェイクニュースの代わりに「ニセ・誤情報」という表現を使います。

それではさっそく進めていきましょう。**(クリック)**

INDEX 目次



PART 1 「ニセ・誤情報」ってなに？

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 騙されたらどうなる？

PART 4 騙されないためには？

PART 5 最後に大切なことを

※資料の出典は最終頁にまとめて記載しています。

本日は、

「ニセ・誤情報」ってなに？
私たちはなぜ騙されるのか？
騙されたらどうなる？
騙されないためには？
最後に大切なことを

この流れで確認していきましょう。それでは **(クリック)**

INDEX 目次



PART 1 **「ニセ・誤情報」ってなに？**

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 騙されたらどうなる？

PART 4 騙されないためには？

PART 5 最後に大切なことを

1つ目のテーマ、「ニセ・誤情報」ってなに？

先ほどお伝えした通り、今日はフェイクニュースという言葉の代わりに、この「ニセ・誤情報」という言葉を使いますが、そもそも「ニセ・誤情報」とは何なのか、これを確認していきます。
(クリック)

種類は2つ

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



2

誤情報

ミスインフォメーション



6

「ニセ・誤情報」は、大きく2つに分けられます。1つ目が「ニセ情報」、2つ目が「誤情報」。

それぞれどんなもので、どんな出来事が起きているのでしょうか。まず最初は **(クリック)**

「ニセ情報」とは？

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



- **意図的／意識的** に作られたウソ
- **虚偽** の情報

7

「ニセ情報」。英語ではディスインフォメーション。これは意図的、意識的に作られたウソ、わざと作られた誤りのことです。

意図的ということは、うっかり、勘違いではありません。何かしら狙いがあって作られたウソ、ということになります。このニセ情報によって、実際にどんな事件が起きているのでしょうか？ **(クリック)**

ニセ情報の具体例

ニセ情報が起こした銃撃事件「ピザゲート事件」



2016年、米国ワシントンD.C.のピザ店に男が押し入り、ライフル銃を発射する事件がありました。

この男は、『ピザ店で人身売買と児童買春が起きている』というネットの投稿をもとに、「囚われた子供達を救う為にやった」と供述しましたが、**ネットの投稿はすべてニセ情報**でした。

当時は大統領選挙の期間中で、ある共和党支持者が「民主党議員と支持者がピザ店で人身売買をしている」という**デマを意図的に流し、それが広まった**のです。

のちに「ピザゲート」と呼ばれるこの事件、米国内には未だ、このニセ情報を信じている人がいます。

2016年、アメリカ、ワシントンD.C.のピザ店に男が押し入り、ライフル銃を発射する事件が起きました。

この男は「ピザ店内で人身売買と児童買春が行われている」というネットの投稿を見て、捕まっている子供達を救う為にやったと供述したのですが、ネットに書かれていた内容はすべてニセ情報でした。

当時は大統領選挙の真っ最中で、ある共和党の支持者が「民主党議員とその支持者が、ピザ店内で犯罪行為を行っている」というデマを流して、それが広まってしまったのです。

つまりネットに載っていたのは根拠のないでたらめ。それを信じ込み、何の罪もないお店をライフルで襲ったという、とんでもない事件だったのです。

のちに「ピザゲート」と呼ばれるこの事件。アメリカでは未だにこのニセ情報を信じている人がいます。これは「民主党議員の評判を下げたい」という狙いによって意図的に作られたウソと言えるので、正に「ニセ情報」といえるでしょう。

(クリック)

種類は2つ

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



2

誤情報

ミスインフォメーション



9

左側の「ニセ情報」は意図的にわざと作られたウソでした。では右側の「誤情報」、これはどんなものでしょうか？

(クリック)

「誤情報」とは？

2

誤情報

ミスインフォメーション

- 勘違い／誤解により
拡散した間違い情報



10

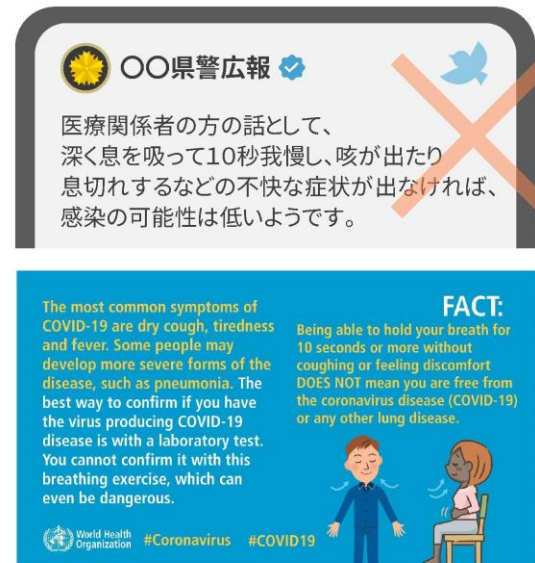
「誤情報」。英語ではミスインフォメーション。これは勘違いや誤解、うっかり慌てて意味を取り違えてしまったなど、まあ悪気はなかったんだけど、結果的に情報を誤って理解して、それが広まってしまったね、というケースです。

先ほどのニセ情報は意図的に、わざと作られているので、その点は大きく違いますね。

ではその「誤情報」で、いったいどんな事件が起きているのでしょうか？(クリック)

誤情報の具体例

世界で拡散「新型コロナの誤ったセルフチェック」



コロナ禍の2020年4月。

「深く息を吸って10秒我慢できれば
新型コロナに感染していない」という

誤ったセルフチェック が、メッセージ
アプリでチェーンメール形式で広がりました。

なんと、ある県警の公式アカウントも

この誤った情報を投稿 してしまいました。(上図)

これは世界で広まった誤情報で、WHOも代表的な
誤情報の一つとして注意喚起しています。(下図/※1)

11

2020年4月、新型コロナ騒ぎが始まって2、3か月過ぎた頃です。
「息を深く吸って10秒我慢できれば、新型コロナに感染していない」
という間違った情報が、メッセージアプリなどで拡散されはじめまし
た。

もちろん何の根拠も無いデマですが、台湾の専門家が言っていた、
東京の看護師から聞いた、など幾つかのパターンがあり、これをあ
る地域の県警公式アカウントがSNSに投稿してしまったことから、一
気に拡散してしまいました。

「新型コロナに感染すると知らぬ間に肺が弱くなる、だから肺に圧
力をかけると確認できるのだ」という、いかにもそれらしい間違った
情報が重なりあい、デマが出来上がってしまったようです。

これが「誤情報」の実例。勘違いや誤解、うっかり慌てて意味を取り
違えてしまった、このようなケースを誤情報と呼びます。

(クリック)

「ニセ・誤情報」ではないけど…
さらにもう一つ、害をなす情報

3

悪意ある情報

マルインフォメーション



12

実はもう一つ、ニセ・誤情報では無いけれど、こういうものもあります。「悪意ある情報」。これはいったい何でしょうか？

(クリック)

「悪意ある情報」とは？

3

悪意ある情報

マルインフォメーション



13

情報自体は正しいが、
誰か(何か)を**攻撃**したり
誤解させる狙い
のある情報

「悪意ある情報」とは、情報自体は正しい、間違っていないのだけど、その情報に誰かを攻撃したり、何かの評判を下げたり、誤解させたりする狙いのあるもの、それを「悪意ある情報」と言います。

いったいどのようなものなのか、具体例を見てみましょう。

(クリック)

悪意ある情報の具体例

例え事実でも「悪意ある情報」の扱いは慎重に！



ネット炎上で、**渦中の人物の「個人情報」**が拡散されることがあります。

最近では「**暴露系**」の**YouTuber**も話題ですが、いずれも「悪意ある情報」の拡散です。

元の情報の文脈を意図的に変えたものや、**リベンジポルノ**も悪意ある情報です。

例えその内容が事実でも、「悪意ある情報」で相手に損害を与えると、民事上の責任を求められることがあります。
投稿しないのはもちろん、拡散にも注意しましょう。

14

ネット炎上などで、その当事者の「個人情報」がネットで拡散してしまうことがありますよね。最近は「暴露系」と呼ばれるYouTuberも話題ですが、これらはいずれも「悪意ある情報」、情報は正しくても悪意が含まれる情報です。そういう意味では、リベンジポルノも悪意ある情報と言えます。

また、情報は間違っていないのだけど、意図的に元の情報を一部だけ切り取ったり、文脈を変えたりしているものもあります。やはりそれも「悪意ある情報」です。

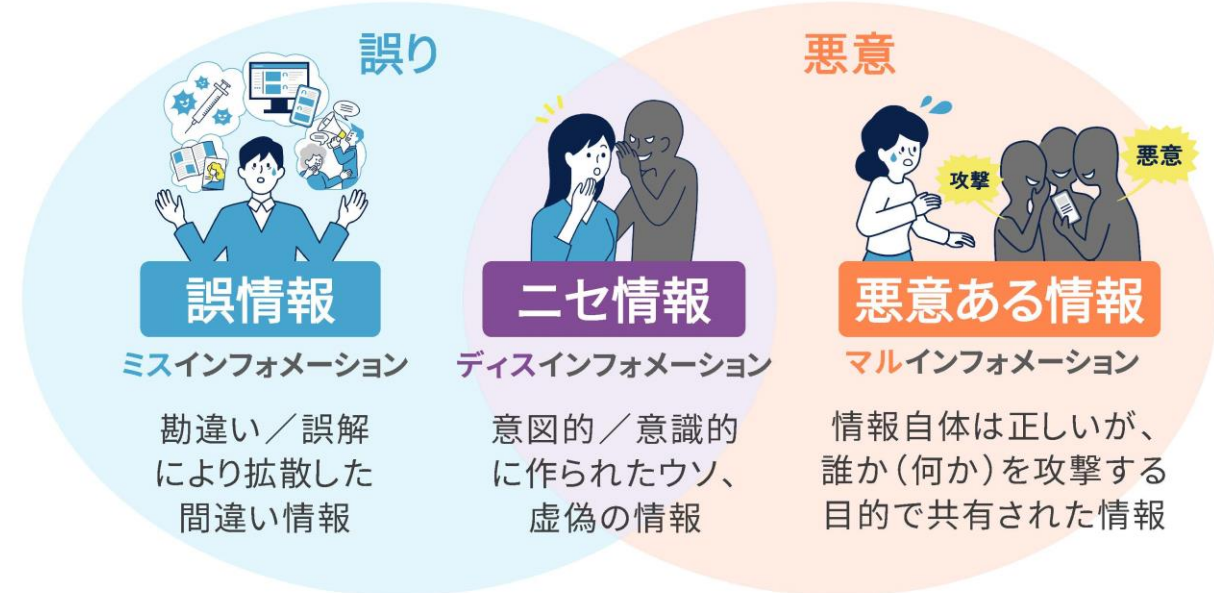
重要なのは、例えその情報が事実でも、結果的に相手に損害を与えてしまったら、民事上の責任を求められることがあるということ。

「悪意ある情報」は投稿しない。そして拡散させないようにも注意しましょう。

(クリック)

ここまでのまとめ

害のある情報



15

ここまで、「ニセ・誤情報」は2つに分類できること。「ニセ情報」はわざと作られたもの。「誤情報」は勘違いや誤解によるもの。そして、情報は正しくても、誰かを攻撃したり、何かを誤解させる狙いのあるものは「悪意ある情報」と分類されることを確認しました。3つまとめて「害のある情報」とも言えますね。

こういった情報に騙されてしまう人が大勢いるのです。

(クリック)

では私たちは、なぜ騙されてしまうのか、この点について確認していきましょう。

(クリック)

PART 1 「ニセ・誤情報」ってなに？

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 騙されたらどうなる？

PART 4 騙されないためには？

PART 5 最後に大切なことを

INDEX
目次

Q 同じ商品ですが…
気になるのはAとB、どっち？



17

見て下さい、この2つの電子レンジ。実はメーカーも型番も全く同じ、同一の商品なのですが、皆さんはどちらの電子レンジが気になりますか？

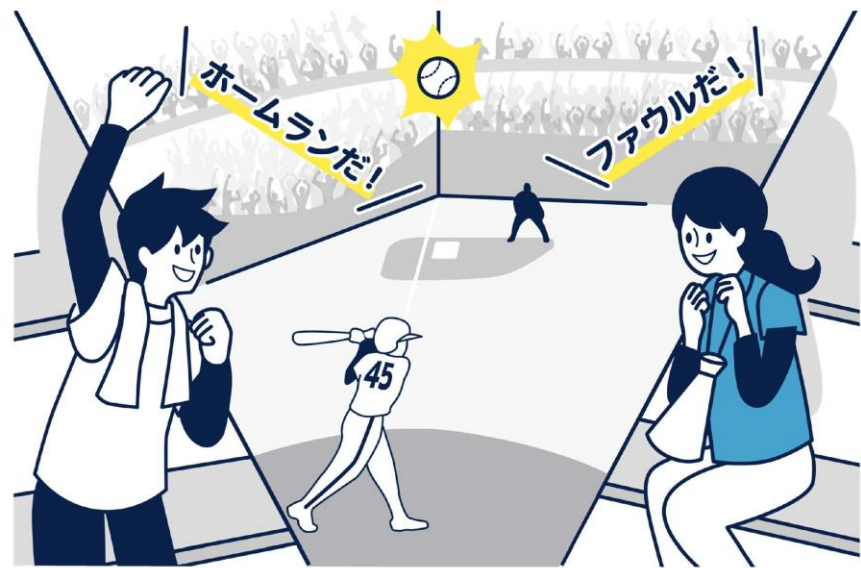
もしどちらか一つを購入するとしたら、「A」「B」どちらの電子レンジを選ぶでしょうか？

実は多くの方が「B」を選びます。その理由は、ただ「特価品」とだけ書かれたAよりも、値引き前の値段が表示されて、どれくらい安くなっているか具体的に分かるBの方が、なぜか「お得」だと感じてしまい、選びたくなるという心理なんです。

でも実際は、どちらも全く同じ商品、同じ値段です。

続いてはこちら。[\(クリック\)](#)

Q 同じ光景を見ているのに、なぜ？



18

ここは野球場。プロ野球の試合が行われてます。

「さあ、バッターが打った！打球が伸びた伸びた、これはポールギリギリだ、入るか、どっちだ、どっちだ！」 ワー！という客席全体からの歓声。

プロ野球の試合で良くみられる光景です。ポールギリギリの際どい打球。ホームランかファウルか判断が難しい場面。ビデオ判定しないと分からないくらいの微妙な打球です。それなのに・・・

攻撃側の観客はホームランだと判断して「やったー！」と喜び、守備側の観客はファウルだと判断して「危なかった！」と喜んでいます。

目の前で起きている出来事、いま見ている光景ですら、それぞれ自分の立場で「〇〇だったらいいなあ」という方に見えてしまう。それを事実だと思ってしまう。これは人間の本能です。

先ほどの電子レンジ。この野球場で起きている光景。こういった現象を(クリック)

心理現象「認知バイアス」のせいかも？



人は、自分の願望や経験、思い込み、周囲の環境によって、**無意識のうちに合理的ではない行動、偏った判断をする**ことがあります。
「認知バイアス」と呼ばれるこの現象は、私たちの生活の様々な場面で起きています。

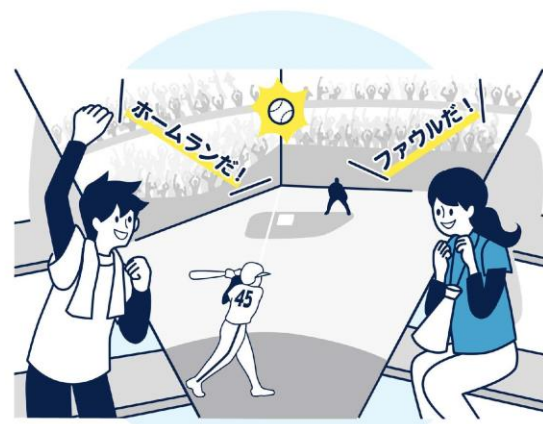
この現象を別の言葉で表現すると...？

19

「認知バイアス」といいます。私たちは、自分の願望や過去の経験、思い込み、周りの環境からの影響を受けて、無意識のうちに全く合理的ではない行動、偏った判断をしてしまうことがあるのです。

同じ値段の同じ電子レンジなら、どっちを選んでも一緒だし、同じ打球を見ているのだから、攻撃側と守備側での反応も同じはずです。でもそうならないのは、認知バイアスの仕業なんですね。この現象は、私たちの生活の様々な場面で起きています。そして、この現象を別の言葉で表現すると**(クリック)**

「認知バイアス」を別の言葉で表現すると...

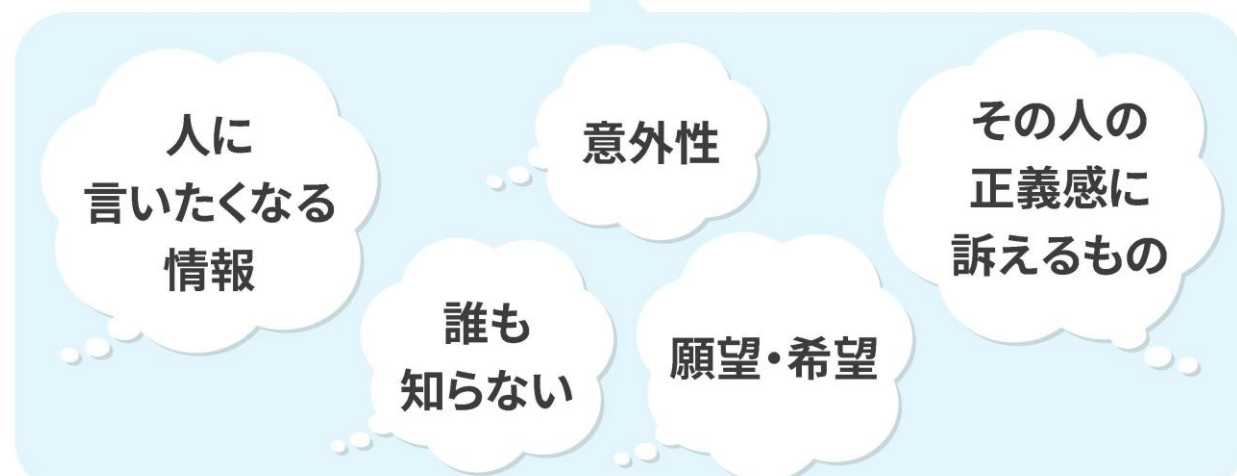
人は **信じたいもの** を選ぶ

20

人は「信じたいもの」を選ぶ。私たちは、いろいろな情報をもとに合理的な判断をしている、と思いたいのですが、実は「そうだったらいいな」という感情、信じたいという気持ちにかなり支配されています。だから、何かを選ぶ、判断する時、無意識のうちに自分の願望が組み込まれた行動をしてしまうのです。

ではその理屈を今日のテーマである情報の世界に置き換えてみましょう。私たちが信じたいと思う情報ってどんなものでしょうか？
例えば**(クリック)**

「認知バイアス」を別の言葉で表現すると...

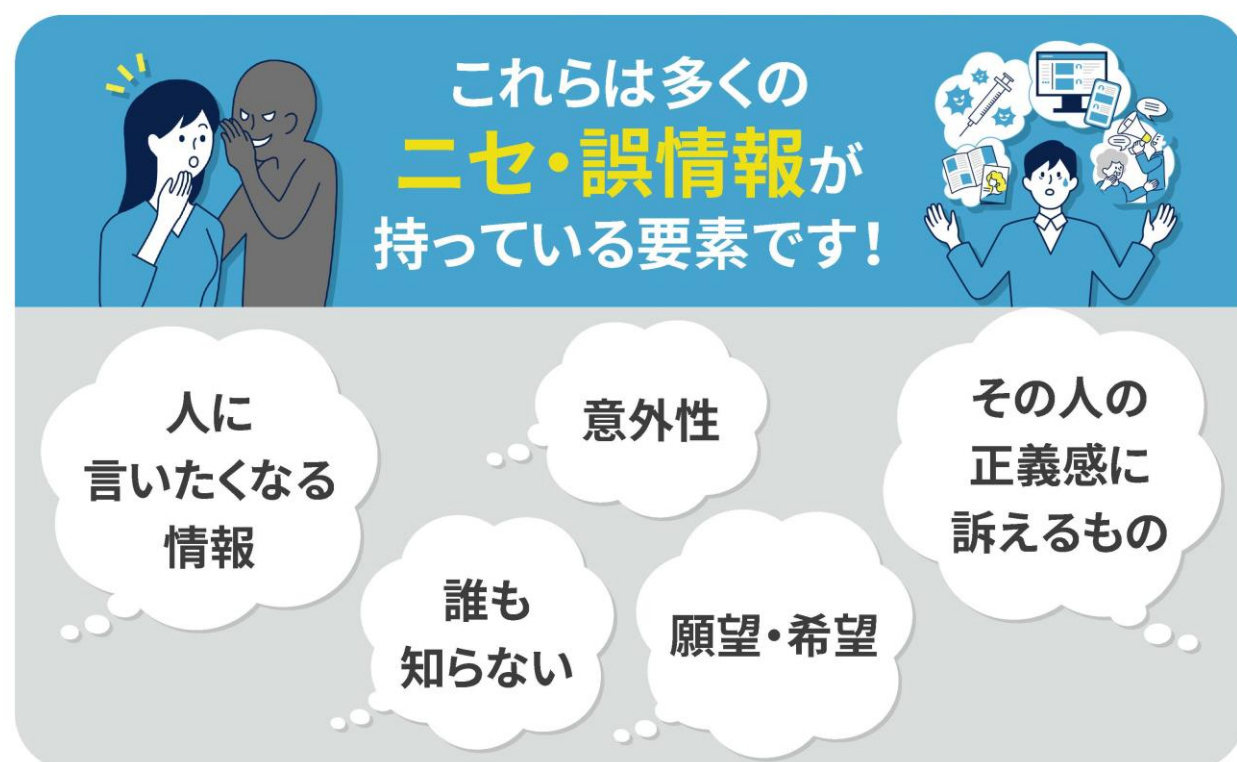
人は **信じたいもの** を選ぶ

21

こういうもの、信じたくありませんか？ 「人に言いたくなる情報」「意外性のある情報」「誰も知らない情報」「自分の願望や希望に合った情報」「正義感に訴える情報」。

これらはみんな本当だったらいいなって思いたくなる情報ですよ。 「実は嘘、間違いでした」よりも、本当だった方が嬉しい、望ましい。 だから信じたいと思ってしまう。

そして **(クリック)**

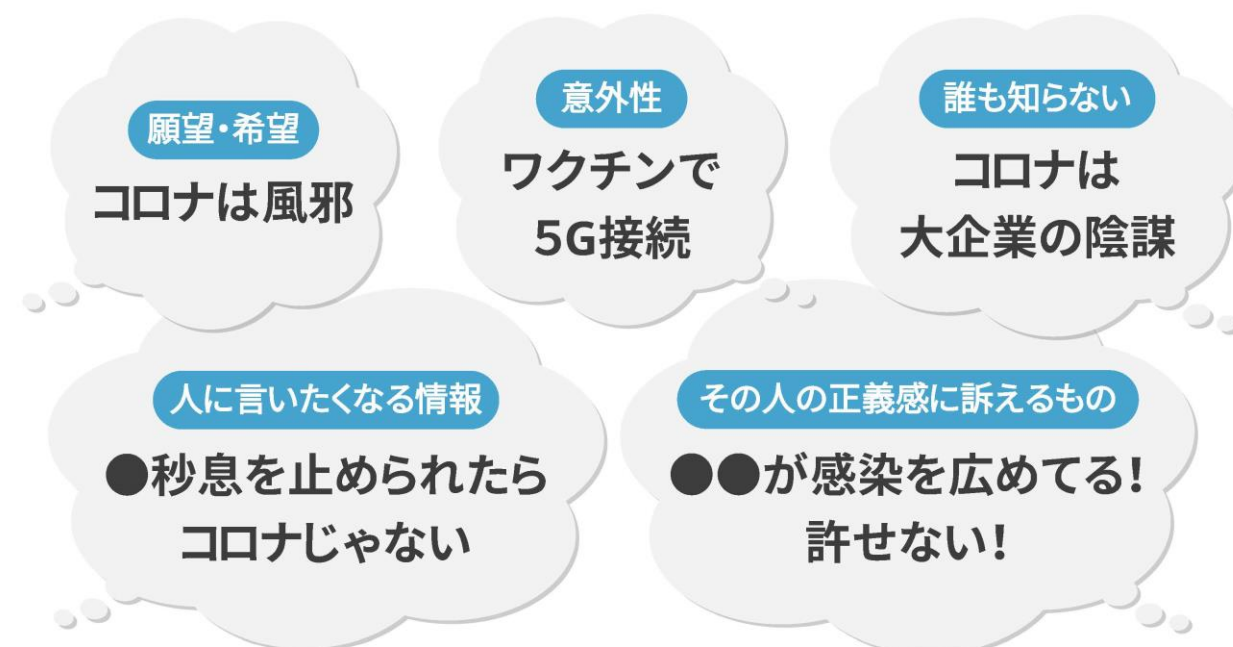


22

たいていの「二セ・誤情報」は、私たちが「本当だったらいいな、信じたいな」と思う要素を持っているんです。

例えば **(クリック)**

例 コロナ禍には・・・



23

新型コロナ禍では、こんなデマが流行りました。

「コロナは風邪」。これ本当だったらどれだけ嬉しいか、私たちの願望ですね。

そして先ほど例に挙げた「●秒息を止められたらコロナじゃない」。そんな方法で分かるはずがないのですが、もし本当なら、誰かに言いたくなりますよね。

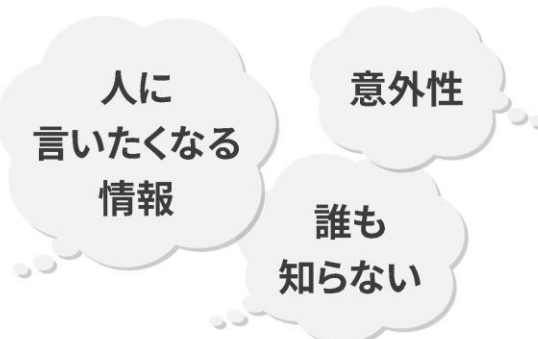
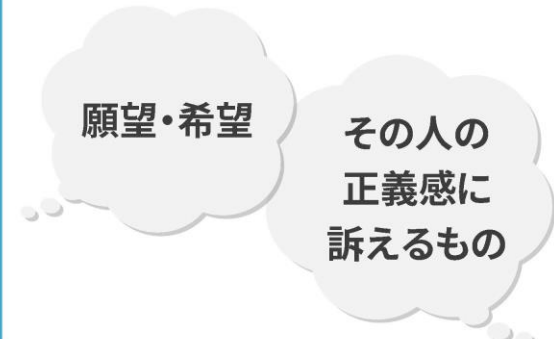
さらには「ワクチンを打つと携帯の5G電波に接続する」。絶対にありえません。つまり意外性がある。

また「コロナは大企業の陰謀」。これが本当なら誰も知らない真実です。人に言いたくなります。

「許せない!」なんて、人の感情に強く訴える言葉ですよ。

これらは全部ウソ、デマです。つまり(クリック)

「ニセ・誤情報」には、
誰かに教えたい要素、感情に訴える要素があるため
共感・拡散されやすいのです。

誰かに教えたい 要素**感情に訴える 要素**

24

「ニセ・誤情報」は、誰かに教えたい、伝えたいと思わせ、感情に訴える要素を持っている。だから拡散されやすいのです。

誰かに教えたいから広まるし、教えなきゃって思わせるから広がっていくわけですね。

例えば皆さん、ご自身を振り返って(クリック)

例 こんな情報、拡散していませんか？**誰かに教えたい要素**

これは出回っていない
情報です! 大切な人に
共有してください!

感情に訴える要素

こんなこと許せません!
同じ被害がないよう
拡散してください!



25

こんな情報を見たり、人に知らせたりしたことありませんか？

「これは出回っていない情報です! 大切な人に共有してください!」
とか、「許せません! 同じ被害がないよう拡散してください!」なんて
いう表現は、新型コロナが流行する前から「ニセ・誤情報」ではよく
見られました。この表現は、拡散させるテクニックであると同時に、
騙されて信じ切っている人たちの心からの叫びでもあるのです。

そんな風に騙されてしまうと(クリック)

PART
02

私たちはなぜ騙されるのか？

「ニセ・誤情報」に
気付かない人

75%

※2

26

PART
02

私たちはなぜ騙されるのか？

「ニセ・誤情報」に
気付かない人

75%

※2

そのうち、
「ニセ・誤情報」を
拡散する人

25%

※2

27

PART
02

私たちはなぜ騙されるのか？

「ニセ・誤情報」に
気付かない人

75%

※2

そのうち、
「ニセ・誤情報」を
拡散する人

25%

※2

「ニセ・誤情報」の拡散スピード

「真実・事実」の

6倍

※3

28

ある調査によれば、「ニセ・誤情報」に気が付けなかった人は75%もいました。本当だったらいいな、信じたいなという気持ちに負けてしまった人がこれだけいる、ということです。

そして「ニセ・誤情報」は、人に伝えたいという要素を持っているので(クリック)

さらにその25%の人が、その「ニセ・誤情報」を拡散させています。拡散するスピードは、通常の情報拡散と比べて(クリック)

およそ6倍。驚異的な早さです。さらには、こういった動きをもっと加速してしまう仕組みがあります。その仕組みとは(クリック)

「ニセ・誤情報」に気付かない人は
「フィルターバブル」に陥っている可能性も・・・



ネットニュース、SNS、検索サービスなどには、**その人が欲しがりそうな情報**を分析し**同じような情報**を表示する「アルゴリズム」と呼ばれる機能があります。

「アルゴリズム」による偏った情報に囲まれると、あたかも**それが世の中の標準だと誤解**してしまう「**フィルターバブル**」という現象に陥ります。

29

「フィルターバブル」。聞いたことのある言葉かもしれません。

皆さんが普段使っているSNSには、自分がフォローした人の投稿が、投稿された順番に並んでいる・・・わけではありません。皆さんが普段、どんな投稿に「いいね」を押しているか、どんな記事をクリックしているのか、そういった情報を分析して、皆さんが「見たい、読みたい」と思う投稿を表示するように調整されているのです。たいていのSNSでこういった表示の操作、「アルゴリズム」と呼ばれる機能による「調整」が行われています。

よく見るニュースサイトの画面を、友達と比べてみてください。トップ記事は同じでも、ページの下の方に行くと全く違う記事が表示されているはず。これもアルゴリズムによる表示の調整です。

このアルゴリズムによって、自分が好む記事、欲しいと思う情報ばかりに囲まれていると、あたかもそれが世の中の標準だと誤解してしまいます。

この現象を「フィルターバブル」と呼ぶのですが **(クリック)**

「フィルターバブル」は**気付けない！**

アルゴリズムは考え方、嗜好を分析し、その人が心地よいと感じる情報ばかり洪水のように流し込めます。

その結果、**「物事を極端にとらえ、狭い視野で考える人」**となっていくます。

そしてさらに心地よい情報ばかり読むことになり…。

もちろん**本人はそれに気が付いていません。**

そんな状況に「ニセ・誤情報」が入り込めば…何が起きるか分かりますよね？

30

フィルターバブルで、「心地よいと感じる情報」に囲まれていると、当然、得られるのは極端で視野の狭い内容ばかりになりますよね。

そんな状況が続けば、当然その人自身も、物事を極端にとらえ、狭い視野で考える人間になってしまうでしょう。しかも本人はそれに気が付くことが出来ない。これは危険な状況です。

そんな時、「ニセ・誤情報」に接してしまい、それを信じてしまったら…何が起きるか分かりますよね。アルゴリズムによって、その後も次々、同じような「ニセ・誤情報」ばかり表示されるようになり、それが世の中の誰もが信じている情報だと誤解してしまう。つまり「ニセ・誤情報」から抜け出せなくなるのです。

(クリック)

見抜くのが難しい！「ディープフェイク」動画



- **顔を入れ替えた動画** をアプリなどで簡単に作れる時代
- AIで作られたディープフェイク動画は **声や話し方** まで捏造できる

31

さらに、新しい技術が「ニセ・誤情報」の世界に手を伸ばし始めています。ディープフェイクと呼ばれる技術が発達し、専門知識が無くても、画像はもちろん、映像や音声の捏造まで簡単にできるようになりました。

動画で「歩いている人」の顔を入れ替えることも、そっくりな声を作り出して、架空の会話をさせることもできます。つまり**(クリック)**

見抜くのが難しい！「ディープフェイク」動画



- **顔を入れ替えた動画** をアプリなどで簡単に作れる時代
- AIで作られたディープフェイク動画は **声や話し方** まで捏造できる

ディープフェイクの危険性①

政治家のディープフェイク動画を作り、嘘の演説をさせることで**社会を混乱**させることも可能。

ディープフェイクの危険性②

証拠動画の捏造も起こりうるので、犯罪捜査や裁判などに影響が及ぶ可能性がある。

32

政治家の演説をでっちあげることも、防犯カメラの動画を加工して、ウソの証拠を作って裁判で勝つことも出来る、かもしれないのです。

ディープフェイクは私たちの生活や価値観を大きく変えてしまう可能性を持つ、非常に高度な技術ですので、慎重に扱う必要があります。

(クリック)

ここまでのまとめ

私たちが騙されてしまう理由

- 理由1 人は**信じたいもの**を選んでしまう
- 理由2 ニセ・誤情報には**信じたくなる要素**がたくさんある
- 理由3 ニセ・誤情報には**人に教えたくない要素**がある
- 理由4 ニセ・誤情報には**誰でも**騙される
- 理由5 ニセ・誤情報は**すばやく拡散**してしまう
- 理由6 ネットの**アルゴリズム**や**ディープフェイク**がニセ・誤情報を加速させている

33

私たちはなぜ騙されてしまうのか、確認できました。人は信じたいものを信じてしまう。そして「ニセ・誤情報」には、信じたくなる要素、人に伝えたくない要素がたくさん含まれています。

だから私たちは騙されてしまうのですが、この流れに、ネットのアルゴリズムやディープフェイクといった技術が加わり、人間の特性・「ニセ・誤情報」の特徴・ネットの機能が互いに作用しあい、どんどん加速している。

これが今まさに起きていることなのです。[\(クリック\)](#)

さあ「ニセ・誤情報」の種類と、私達が騙されてしまう理由がわかりました。今後も「ニセ・誤情報」は増え続ける可能性があります。

では、もし騙されてしまったら、いったい何が起きるのでしょうか？実際の例を見ながら確認していきましょう。[\(クリック\)](#)

PART 1 「ニセ・誤情報」ってなに？

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 **騙されたらどうなる？**

PART 4 騙されないためには？

PART 5 最後に大切なことを

INDEX
目次

1 社会や経済が**混乱**することも…



新型コロナに関するニセ・誤情報の一つに「**携帯の5G電波がコロナを広める**」というものがあり、海外では**携帯の基地局が破壊される**事例が**多発**しました。

通信インフラの破壊は、社会の混乱を招く**重大な犯罪**です。

35

新型コロナに関する「ニセ・誤情報」の一つに

「携帯の5G電波がコロナを広める」

というものがあります。いくら何でもそんな話、誰も信じないだろう、と思うかもしれませんが、海外ではその「ニセ・誤情報」を信じた人たちが、集団で携帯の基地局を襲って破壊するという事件が多数起きています。日本でも、新型コロナワクチンを打つと

「人間が5G電波に接続してしまう」

「体からBluetoothの電波が出始める」

という話を本気で信じている人がいますが、もちろん全くの間違い、とんでもない「ニセ・誤情報」です。

そのような「ニセ・誤情報」によって通信インフラが破壊されるような事態が起きれば、社会全体に大きな混乱を招くことになります。

もちろん、その行為は重大な犯罪です。**(クリック)**

2 消費活動に影響する可能性も…



SNSで話題!!

- タレントにこっそり商品を宣伝させる
- 企業が個人のふりをしてクチコミを投稿する

これらは**ステマ**(ステルスマーケティング)と呼ばれ、問題視されています。※ステマを違法とする国もあります。

サクラが「実際よりも著しく良い商品、お得なサービス」と**誤認させる違法な宣伝** 事例も…。

ステマは消費者の判断を誤らせるだけでなく、横行すると皆が疑心暗鬼となり、消費が冷え込むという指摘もあります。

36

皆さんもよく耳にする「ステマ」という言葉。正しくは「ステルスマーケティング」と呼ばれるもので、たとえば

「タレントにこっそり商品を宣伝させる」

「企業が個人のふりをしてクチコミを投稿する」

こういった販売方法がステマに当たります。日本ではステマ自体は違法ではないのですが、海外ではステマを違法とする国もあります。

そもそも、物凄く大袈裟に、実際より良い商品、お得なサービスだと誤解させるような宣伝をすれば、日本でもアウト、違法になります。ステマではこういった問題行為が起きやすい傾向にあります。

ステマは消費者の判断を誤らせるだけでなく、それが横行すれば誰もが疑心暗鬼となり、消費が冷え込むという指摘もあります。

(クリック)

3 「二セ・誤情報」を信じて行動した結果 損害賠償責任を負うケースも…



2019年に話題になったあおり運転事件で
「加害者の同乗者」であるという
二セ・誤情報を投稿された女性が

膨大な量の中傷被害を受けました。

女性は**投稿者や拡散させた人物の特定**
を進め、裁判を行い、すでに
損害賠償を命ずる判決も出されています。

37

皆さんは2019年に話題になったあおり運転事件を覚えていますか？もう犯人は逮捕されましたが、実はこの事件で、全く関係のないある女性が関係者だという濡れ衣を着せられ、大変な被害に遭っていました。

ネットに投稿された、その女性が「加害者の同乗者」であるという「二セ・誤情報」はあっという間に拡散し、女性のもとには膨大な嫌がらせや誹謗中傷のコメントが届きました。

その女性はすぐに弁護士に相談して、投稿した人、拡散させた人を特定し、いくつもの裁判を戦い、損害賠償を命ずる判決も出されています。

この裁判で注目されたのが、リツイートにも一定の責任が伴うという判断です。あくまで判例の一つですが、リツイートも情報発信ですから、その責任を意識することは重要です。**(クリック)**

4 世の中があらぬ方向に進んでしまう可能性も…



2020年の米大統領選では
「ウィスコンシン州の投票率が
200%を超えた、バイデン氏による
不正が行われた証拠だ」
などの**二セ・誤情報**が広まり、
のちにトランプ氏支持者が
ワシントンの連邦議会を襲う
という前代未聞の事件につながりました。

38

2020年のアメリカ大統領選挙で起きた事件も有名です。この時は「ウィスコンシン州の投票率が200%を超えた」というデマが拡散して、

「バイデン陣営による不正が行われた証拠だ」

という騒動に発展しました。もちろん誤った情報です。

この事件はのちにトランプ支持者がワシントンの連邦議会を襲う前代未聞の事件にもつながったと言われています。[\(クリック\)](#)

PART 1 「二セ・誤情報」ってなに？

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 騙されたらどうなる？

PART 4 **騙されないためには？**

PART 5 最後に大切なことを

INDEX
目次

「二セ・誤情報」が広がり、多くの人が騙されてしまうと、社会が混乱したり、個人が賠償責任を求められたり、それどころか世の中が違う方向に向かってしまう可能性もあることがわかりました。

そうならないために、私たちにも出来ることがあります。ここからは「二セ・誤情報」に騙されないためにはどうしたら良いのか、私たち出来ることは何か、確認していきましょう。[\(クリック\)](#)

基本

まずは以下をチェック！



- ☐ **情報源**はある？
- ☐ その分野の**専門家**？
- ☐ **他**ではどう言われている？
- ☐ その画像は**本物**？

40

「ニセ・誤情報」に対抗するため、私たちにできること。まずは基本の4つから。

情報源はある？

その分野の専門家？

他ではどう言われている？

その画像は本物？

この4つを詳しく見ていきましょう。**(クリック)**

Check 1

☒ **情報源**はある？

- ☐ その情報は**どこから、いつ**発信されたものですか？信用できますか？
- ☐ **根拠**となるモノは今も存在していますか？消えていませんか？
- ☐ 情報源が「**海外の**」ニュースや論文の場合、あなたはその情報源を**確認、理解**していますか？

41

まず1つ目、情報源はある？

その情報、どこから発信されたものですか？ 信用できますか？

根拠となるモノは今も存在していますか？ 消えていませんか？

情報源が「海外の」ニュースや論文の場合、あなたはその情報源を確認、理解できますか？ これらはすべて確認すべきことです。

特に情報源が海外の場合、わざと間違った翻訳をしたり、一部だけ切り取ったりすることで、内容や結論を捏造している「ニセ・誤情報」がたくさんあります。**(クリック)**

Check 2

☑ その分野の**専門家**？

- その情報は、**専門知識**や必要な**資格**を持った人が、責任を持って発信しているものですか？
- その人は過去、**二セ・誤情報**を発信して**批判**されていませんか？
- その人は関連する情報や商品を**売**っていませんか？

42

2つ目、その分野の専門家？

その情報は、専門知識や必要な資格を持った人が、責任を持って発信しているものですか？ その人は過去に「二セ・誤情報」を発信して批判されていませんか？ その人は関連する情報や商品を売っていませんか？ その発言に責任を取れる人、団体なのか、しっかり見極める必要があります。**(クリック)**

Check 3

☑ **他**ではどう言われている？

- その情報について**他の人**や**他のメディア**はどのように言っていますか？
- その人の意見に**反論**している人はいませんか？
- **別の内容**で報じているメディアや、**誤りであることを指摘**しているメディアはありませんか？

43

3つ目、他ではどう言われている？

その情報について他の人や他のメディアはどのように言っていますか？ その人の意見に反論している人はいませんか？ 別の内容で報じているメディアや、誤りであることを指摘しているメディアはありませんか？ 情報は一つだけではありません。例えそれが信じたい情報でも「逆の考えはあるかな」「他の意見はどうだろう」と、頑張っ

張って目を向けることが、とても重要なのです。**(クリック)**

Check 4

☑ その画像は**本物**？

- 臨場感のある画像が添えられているから？
それだけで「本当」だと判断して大丈夫ですか？
- その画像を画像検索したら、全く同じ画像がヒットしませんか？
- その画像は過去に撮影された、全く無関係のものではありませんか？

44

4つ目、その画像は本物？

臨場感のある画像が添えられている、それだけで「本当」だと判断していませんか？ その画像、ネットの画像検索で、全く同じものが見つかりませんか？ その画像は過去に撮影された「全く関係のないもの」ではありませんか？

画像が添付された「ニセ・誤情報」は過去にも沢山あります。いずれもネットで拾った火事、混乱、騒動といった、いかにもそれっぽい画像が添付されていました。

もし根拠の分からない情報に画像が添えられていたら、画像検索で見つかるか確認しましょう。

画像が見つかったら、それがいつ投稿されたものか、どんな場面で撮影されたものなのか確認しましょう。もしそれが「ニセ・誤情報」なら、すぐに気付けるはずです。

(クリック)

基本

これで基本をおさえました



- ☒ 情報源はある？
- ☒ その分野の専門家？
- ☒ 他ではどう言われている？
- ☒ その画像は本物？

45

これで、基本の4点を確認できました。

情報源はあるのか。その人はその分野の専門家なのか。他ではどう言われているのか。その画像は本物なのか・・・。

これら基本のポイントを押さえたら、続いて(クリック)

応用

さらに以下もチェック！



- ☐ 「知り合いだから」という理由だけで信じているのでは？
- ☐ 表やグラフも疑ってみた？
- ☐ その情報に動機はある？
- ☐ ファクトチェック結果は？

46

応用編です。

「知り合いだから」という理由だけで信じているのでは？

表やグラフも疑ってみた？

その情報に動機はある？

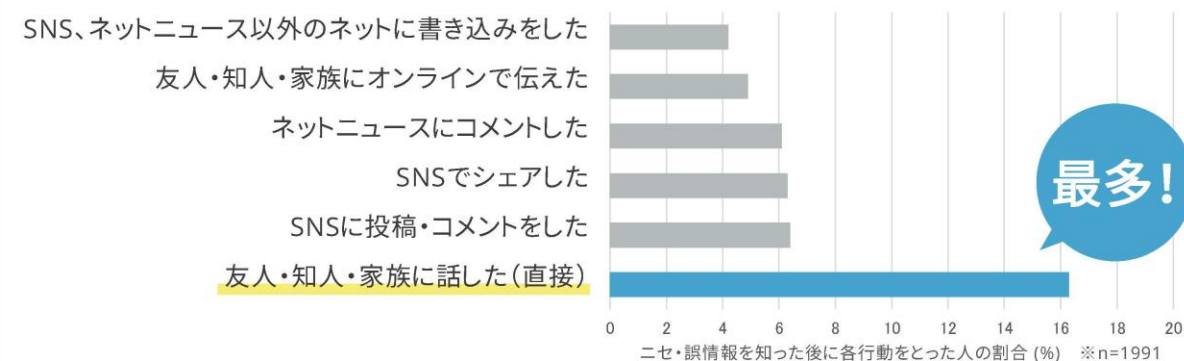
ファクトチェック結果は？

この4点を確認していきましょう。(クリック)

Check 1

☑ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じているのでは？

ニセ・誤情報を見た後、どう行動したか？ ※5



□ コミュニケーション量が多い家族や知人からの情報は**信じてしまいがち**です(※4)。より**慎重**になりましょう。

47

まずは1点目。「知り合いだから」という理由だけで信用していませんか？

人間は、長い時間一緒に過ごし、関係がしっかり構築されている人から聞いた情報をより信じやすいのです。これは自然なことで、当たり前の話なのですが、実はこれが「ニセ・誤情報」が拡散しやすい理由の一つになっています。

「ニセ・誤情報」を信じてしまった時、人はどう行動するか。実は多くの人が友人・知人・家族に伝える、という行動をとっています。つまり、親しい間柄で「ニセ・誤情報」を拡散させてしまうのです。

もし皆さんが、ちょっと信じられないような情報を聞かされ、それを教えてくれた相手が自分と親しい間柄だったら、

「自分は今、いつもよりちょっと信じやすく、騙されやすい状況だから、注意して判断しよう」

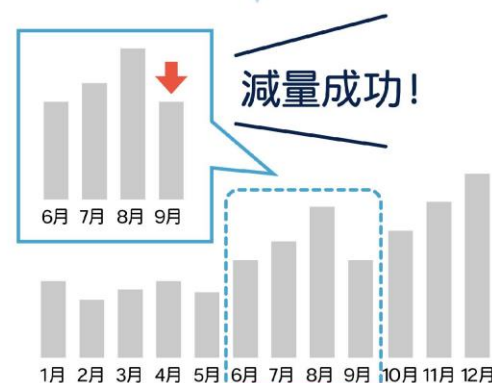
と心の中でこっそりつぶやきましょう。大切なことなので、ぜひ覚えておいて下さい。続いて**(クリック)**

Check 2

☑ **表やグラフ**も疑ってみた？

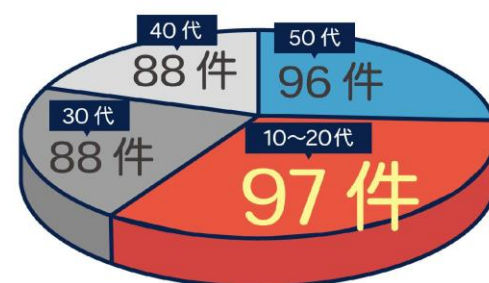
Q

このダイエットは
「成功」と言えますか？



Q

この円グラフ、どこか
変だと思いませんか？



48

「表やグラフ」も疑ってみましたか？

まずは左の棒グラフを見て下さい。ある人のダイエット記録なのですが、6月から9月までの4か月間だけ切り取ってみると、減量が成功したように見えますよね。でも全体で見れば、体重は増えたり減ったり、しかも1月と12月を比較すると、1年間で体重が増えていることが分かります。このように、都合の良い部分だけを切り取ったグラフはよく見られます。騙されないよう気をつけましょう。

続いて右側の円グラフ。年齢ごとに何かを集計しているようですが、ぱっと見た感じ、赤「10～20代」が多いように見えますね。

でもよく見て下さい。実はほかの年代と件数的にはさほど変わりません。それなのに10～20代だけ目立つ赤色、大きな割合を占めるよう面積も修正されています。しかもほかの年代は10年毎の区切りなのに、10代と20代だけまとめて20年区切りで集計しています。

恐らく「若者が多く占めている」と見せたい意図があるのでしょう。このようなグラフもよく見かけるので注意してください。

続いてはこちら **(クリック)**

Check 3

☑ その情報に**動機**はある？

- 意図的な二セ情報には、拡散させたい**動機**があります。
それに気付くためには...

49

その情報に動機はある？

意図的に作られた二セ情報には、拡散させたい何かしらの動機があります。例えばそれが「ただのいたずら」「愉快犯」でも、世の中を騒がせたいといった、何らかの動機が必ずあるのです。

もしかしたら、例えばライバル企業の業績を邪魔したいとか、二セ情報で儲けたいといった、もっと明確で具体的な動機かもしれません。それに気づくためには・・・ **(クリック)**

Check 3

☑ その情報に**動機**はある？

- 意図的な二セ情報には、拡散させたい**動機**があります。
それに気付くためには...

その二セ情報で、
誰が**得**をするか？ 誰が**損**をするか？

という視点で**冷静に見直して**みるのが重要です。

50

その情報で得をするのは誰か、損をするのは誰か、そんな視点で情報を見直してみると、その情報が発信された背景が見えてくることがあります。もちろんこれだけで何でも分かる訳ではありませんが、「二セ・誤情報」が飛び交う現代では、このような情報の見方のクセをつけることが、情報リテラシーを鍛えることにつながります。

こんな視点でニュースを見たり、ネットの記事を読んだりすると、また違った見方が出来るのでお勧めです。

続いて **(クリック)**

Check 4

☑ **ファクトチェック**結果は？

様々なファクトチェック活動が見つかります

ファクトチェック 🔍 検索

- ファクトチェックとは、情報・ニュースや言説が「**事実に基づいているか**」を調査、公表する営みのこと。大手メディアやネットメディア、非営利組織などが実施している様々なファクトチェックがあります。ニセ・誤情報を**判別するための手段**として活用しましょう。

51

ファクトチェック結果はどうでしょう？

「ファクトチェック」とは、ニュース報道や情報が「**事実に基づいているか**」を調査、検証して公表する活動のことです。

大手マスメディアやネットメディア、非営利組織などが実施している様々なファクトチェック活動があり、中には特定の分野に特化したファクトチェック活動を行っている団体もあります。

「ニセ・誤情報」を判別するために有効な手段の一つですので、情報の判断に迷った時には活用しましょう。

ですが、実はややこしいことに**(クリック)**

正確さを段階で示す「ファクトチェックレーティング」

レーティングの一例

(特定非営利活動法人ファクトチェック・イニシアティブによる)

正確	事実の誤りはなく、重要な要素が欠けていない。
ほぼ正確	一部は不正確だが、主要な部分・根幹に誤りはない。
ミスリード	一見事実と異なることは言っていないが、釣り見出しや重要な事実の欠落などにより、誤解の余地が大きい。
不正確	正確な部分と不正確な部分が混じっていて、全体として正確性が欠如している。
根拠不明	誤りと証明できないが、証拠・根拠がないか非常に乏しい。
誤り	全て、もしくは根幹部分に事実の誤りがある。
虚偽	全て、もしくは根幹部分に事実の誤りがあり、事実でないことが知られている疑いが濃厚である。
判定留保	真偽を証明することが困難。誤りの可能性は強いが、否定もできない。
検証対象外	意見や主観的な認識・評価に関するものであり、真偽を証明・解明できる事柄ではない。

ややこしいことに...世の中の情報は「正しい」「間違い」の2種類だけではありません。

- 情報の一部だけが誤り
- 今はまだ真偽を判定できない など

曖昧なものが、実はたくさんあります。

ファクトチェックを行う団体は、それらを細かく分類して客観性を保つ取組みを行っています。

52

世の中の情報は「正しい」「間違い」の2種類だけではありません。情報の一部だけが誤っていたり、今はまだ真偽を判定できないなど、曖昧なものもたくさんあります。実はむしろそっちの方が多いかもしれません。あるファクトチェック団体は、それらを左の表のように細かく分類して客観性を保つ仕組みを作っています。これはファクトチェックレーティングと呼ばれる取組みです。「正しい」「間違い」以外にも多くの分類がありますね。

さらに、ファクトチェックで一番大事なポイントは・・・[\(クリック\)](#)

そして...

ファクトチェックもすぐ鵜呑みにしない！



運営資金はどこから？

利害関係はない？

特定の団体と繋がってる？

執筆者は誰？

そのファクトチェックサイトが公表している内容が適切か、運営組織に問題がないか、[見極めることも重要](#)です。

53

ファクトチェックもファクトチェックすること！ すぐ鵜呑みにしないことです。

その活動の運営資金はどこから出ているのか、特定の思想や党派性に偏っていないか、ファクトチェックした内容で利益を得ていないか、利害関係はあるのか、そのチェックは誰がやったのか、チェックされた内容はもちろん、その団体そのものをチェックすることも重要なのです。[\(クリック\)](#)

応用

これで応用も確認できました



- ☒ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じているのでは？
- ☒ **表やグラフ**も疑ってみた？
- ☒ その情報に**動機**はある？
- ☒ **ファクトチェック**結果は？

54

これで、応用の4点も確認できました。

その情報、

親しい人から聞いた話ですか？もしそうなら、ちょっと注意して判断した方がいいですよ。

表やグラフもちゃんと疑ってみましたか？

その情報に動機はありますか？

ファクトチェックサイトは確認しましたか？

これが応用の4点です。基本と応用をまとめると**(クリック)**

基本が4つ、応用が4つになります。

何も考えずに情報を受け取るのではなく、このような視点で、情報を斜めから見てみる。この意識を持つだけでも、情報リテラシーは高くなります。

そして忘れちゃいけないのが・・・**(クリック)**

ここまでのまとめ

騙されないためのチェック項目



基本

- ☒ **情報源**はある？
- ☒ その分野の**専門家**？
- ☒ **他では**どう言われている？
- ☒ その画像は**本物**？

応用

- ☒ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じていないか？
- ☒ **表やグラフ**も疑ってみた？
- ☒ その情報に**動機**はある？
- ☒ **ファクトチェック**結果は？

55

それでも騙される。だから...

- わからなければ 拡散しない
- 誰かを傷つけるなら 拡散しない
- 医療・健康情報は 安易に 拡散しない



- リツイート前に **ひと呼吸**
- 手を止めて「間違いでは??」
- 異なる情報は 出ていないかチェック

56

それでも、私たちは騙される。だから、わからなければ拡散しないし、誰かを傷つけるなら拡散しない。医療・健康情報なら安易に拡散させない。そして、リツイート前にひと呼吸。いったん手を止めて「間違いかもしれない。全然違う情報が出ていないかな?」と確認する。

もしかしたら、こういった意識が一番重要かもしれません。そして、これは今日、今からでもできることですよね。ぜひ覚えて頂きたいと思います。**(クリック)**

INDEX
目次

PART 1 「ニセ・誤情報」ってなに？

PART 2 私たちはなぜ騙されるのか？

PART 3 騙されたらどうなる？

PART 4 騙されないとためには？

PART 5 **最後に大切なことを**

ここまで「ニセ・誤情報」の定義、人はなぜ騙され、騙されたらどうなるのか、そして騙されないとためにはどうすればよいのかを確認してきました。

最後に、「ニセ・誤情報」に立ち向かうために、大切なお話をして終わりたいと思います。

(クリック)

Q これは事実ですか？ 意見ですか？

〇〇選手は、
オリンピックで金メダルを取った 偉大なアスリートだ。



58

「〇〇選手は、オリンピックで金メダルを取った偉大なアスリートだ。」

この方の発言は「事実」でしょうか？ それとも「意見」でしょうか？

正解は・・・(クリック)

A 実は、事実も意見も含まれています

〇〇選手は、
オリンピックで金メダルを取った 偉大なアスリートだ。

客観的な事実

個人的な意見



59

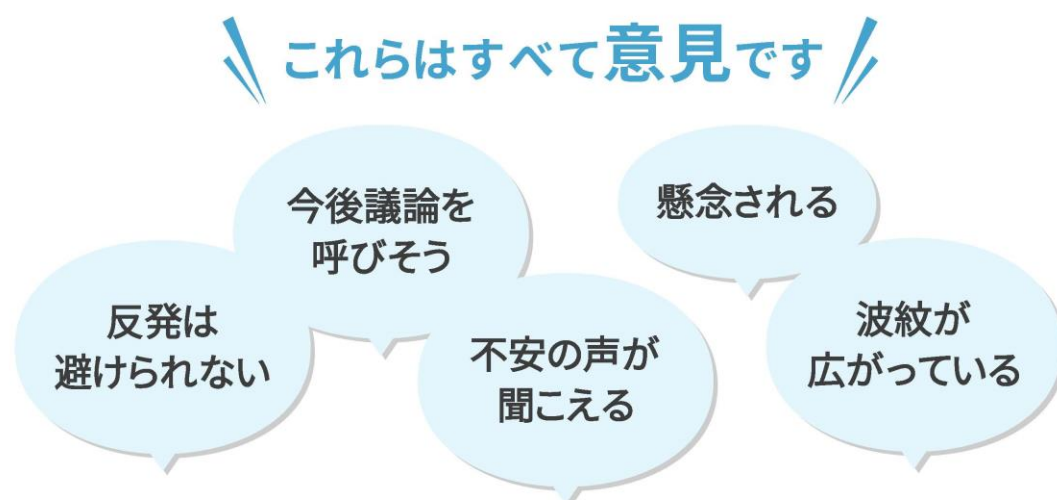
事実と意見、両方が含まれています。

「オリンピックで金メダルを取った」のは客観的な事実ですよ。そして「偉大なアスリート」というのは、この人の個人的な意見。

世の中を飛び交っている情報には、こんな感じで、事実と意見が全く同じような顔をして並んでいることがあります。

つまり・・・(クリック)

情報には **事実と意見が混在** してることも多く、
自分が情報を発信する際にも注意が必要です。



情報には、事実と意見が混在している。私たちが向き合っている情報の多くがそうです。情報はとても複雑なのです。

まるで事実のように見せかけた意見もあれば、意見なのか事実なのか、話している本人も分かっていないケースだってあります。自分で情報を発信する際にもぜひ注意してください。

情報って複雑なんだと感じた時に、思い出して頂きたい言葉があります。**(クリック)**

さいごに

海外の学生団体「The Education Tree」より
メッセージ

“あなたが「正しい」からといって、私が「間違っている」わけではありません。

あなたが**私の立ち位置から見たことがない**だけです。”

「The Education Tree」という海外の学生団体が発信したメッセージです。

あなたが「正しい」からといって、私が「間違っている」わけではありません。あなたが私の立ち位置から見たことがないだけです。

実はこのメッセージには **(クリック)**

さいごに

海外の学生団体「The Education Tree」より
メッセージ

“あなたが「正しい」からといって、
私が「間違っている」わけではありません。

あなたが**私の立ち位置から**
見たことがないだけです。”

61

このようなイラストが添えられていました。1枚の紙を挟んで、3人の人が議論しています。誰が正しくて、誰が間違っていると思いますか？ 相手の立ち位置、相手の気持ちを想像することの重要性が非常によく分かるイラストですね。

「正しいのは私だ!」「いや、それはニセ情報だろう!」といった議論が始まってしまったら、いったんこのイラストを思い出してみてください。それでは最後に・・・**(クリック)**

／ この講演で持ち帰っていただくもの ／



騙されやすいのは

?

?

している人

要注意!

62

講演を始める時、「今日は真ん中の空欄にどんな言葉が入るか、ぜひそれを考えながら聞いて下さい」とお伝えしましたよね。

ここにはいったいどんな言葉が入るのか、みなさん頭の中で、自分なりの答えを思い浮かべて下さい。よろしいですか？

それでは!**(クリック)**

〳 この講演で持ち帰っていただくもの 〳〳



騙されやすいのは

「自分は騙されない」

と安心 している人

要注意!

63

「騙されやすいのは「自分は騙されない」と安心している人」

いかがでしょう？ もちろん皆さんが今、頭に思い浮かべている言葉もすべて正解です。この講演で手に入れたとても重要な答えですので、ぜひ忘れず、そして、

「騙されやすいのは「自分は騙されない」と安心している人」

この言葉と一緒に持ち帰りください。ご清聴ありがとうございました。**(クリック)**

出典

- P11 ※1
WHO Webサイト「Coronavirus disease (COVID-19) advice for the public: Mythbusters」より
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/advice-for-public/myth-busters>
- P26, 27, 28 ※2
山口真一ほか (2019). Innovation Nippon 2019 日本におけるフェイクニュースの実態と対処策.
- P28 ※3
Vosoughi, S. et al. (2018). The spread of true and false news online. Science, 359, 1146-1151.
- P47 ※4
Bottger, P. C. (1984). Expertise and air time as bases of actual and perceived influence in problem-solving groups. Journal of Applied Psychology, 69(2), 214-221.
- P47 ※5
山口真一ほか (2019). Innovation Nippon 2019 日本におけるフェイクニュースの実態と対処策.

65

※スライド内データの引用元一覧です。



○おわりに

フェイクニュースに関する情報は、日々更新されています。新しいフェイクニュースは、残念ながらこれからも発生するでしょう。特に、大きな社会的・政治的出来事が起こった際は要注意です。

このような状況を踏まえ、本教材は更新され続ける必要があります。最新の事例を取り込み、フェイクニュースの新たな手法やテクノロジーを私たちは知る必要があるでしょう。そして、フェイクニュースに備えた心構えを持ち、適切な情報行動とは何かを今後も考え続ける必要があるのです。

一講師用ガイドライン

インターネットとの向き合い方

ニセ・誤情報

に騙されないために

発行者 総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

監修 山口 真一（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授）
小木曾 健（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 客員研究員）

デザイン 渡部 玲花（ワタナベスライドデザイン）
伏見 まどか（Fushimi Design）